

フクニ革命共同研究の  
方法と対象に於て

Kyoto University



去年の最後の研究会へおりに申しあげました  
ように、私は、「共同研究」の進展を心から  
しほすか、この案に大きく力をそそぐこと  
を切り出すことが、お水も全体としてそりま  
めすことだ、先決問題ではないか、と述べま  
す。しかし、この場合、こゝして切りやりと  
切り出すと、対象に即して問題にするのか、  
お水とそりまに即して問題にするのか、とい  
うことが明らかにそ水おはなりません。そ水  
とそりま、お水とそりまは、こゝして、直接とし

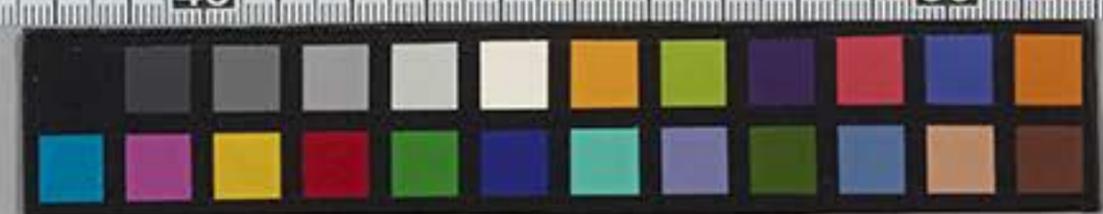
こは向接に討議するべきことでは思ふところ  
です。お水おの任りの自覚となすほどの、は  
お水とした線は、お水おの任りのようは考えられ  
ます。  
お水とそりま、お水おの任りの、検討するすか  
お水とそりま、お水おの任りの、

【  
○  
】

~~~~~

(長崎大学文学部)

Kyoto University



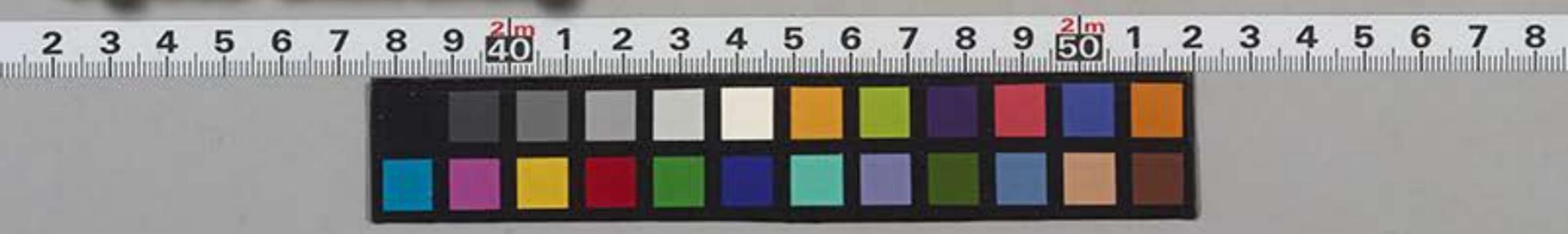


其に、イデオロギイとして、仁子もうえがた。  
 是の明かにして、いなるものにはなにかと、  
~~と、~~  
 18世紀思想とフランス革命の位置と、思想  
 が、いかにして政治的、主権に、一に転化したか、  
 と、一般論的な問題を私に、おまかせして、  
 E、唯物史観における上部構造と下部構造の  
 位置と現在した公式にあてはめてみますと、  
 一般論、次のように図示できると思えます。

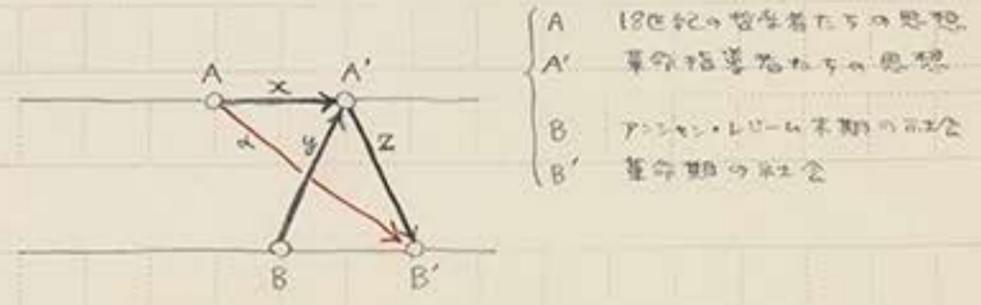


18世紀思想の位置が、フランス革命より上、  
 にあるのは、前者が上部、後者が下部<sup>構造</sup>である  
 ことが、  
 一般論として、  
 18世紀思想の位置が、フランス革命の<sup>上</sup>に

(京都大学文学部蔵書印)



はななく、すこし左にずれたのは、前者  
 が後者に対して時間的に先行することを示し  
 ています。なおベクトルが示した $\alpha$ は、18世  
 紀思想のフランス革命に対する規定作用を示  
 しています。  
 しかし、この図式は、次々よりに改造すべ  
 ば、方法の地図として、 $\alpha$ と $\beta$ の位置によ  
 りたことと異なります。



- A 18世紀の哲学者たちの思想
- A' 革命指導者たちの思想
- B フランス・ロベール期の社会
- B' 革命期の社会

18世紀の「哲学者」と「経済学者」たちの  
 思想は、革命指導者たちの思想を媒介として、  
 革命のエネルギーに転化したものと考えられ  
 ますから、 $\alpha$  ( $A \rightarrow B'$ ) は、 $\beta$  ( $A \rightarrow A'$ ) と  
 $\gamma$  ( $A' \rightarrow B'$ ) とに分解して考えることができ  
 る訳です。この場合、媒介として $\beta$ と $\gamma$ は文  
 へて $A'$ は、 $A$ と同時に $B$ から規定をうけよう  
 と考えられます。 $\gamma$ は $B$ の $A'$ に対する規定作用  
 を示す訳です。革命家の中には、 $\beta$ と $\gamma$ の

(図式はあくまで参考図式)









それとまたした。 家永先生の任事などには、  
よく似たがたを、 いまだに「よくのこつ」  
で「さかど」なにかと思われます。

また、マルクス大学は、 思想史のとりあつ  
かひにあつた。  $\vec{y}$  に重点をおこせたといい  
てよいと思ひます。

おたうにこつて大切なものは  
ホーに、  $\vec{x}$  と  $\vec{y}$  をなにかあわせてこつてつぎ  
をさす =  $\lambda$ 。 (たへんばルフェーブルのBが  
カルトの  $\vec{y}$  B に入るにたつては、 この英に

ついで、 = ちよつとにはまじな結果が示すたつ  
いさよふに思ひます。)

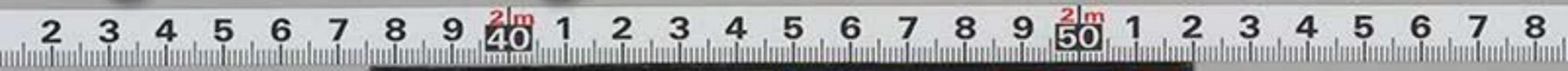
$\lambda = 1$  に、 = ちよつとの思想史にあつたとい  
つたつた  $\vec{z}$  へ、 がまじつた科学的・ 急進的な  
性質が明らかになる。 とくに、 この二つの  
英ごはなにかと思ひます。

ホーの英は、 よく似た英は意識せしめ  
つたつた  $\vec{z}$  のたつた  $\vec{z}$  のうたつた  $\vec{z}$  は、 いさ  
よふちよつとの英を定めてつたつた  $\vec{z}$  がまじ  
と思つたつた  $\vec{z}$  が、  $\lambda = 1$  の英は、 よくいふ英に

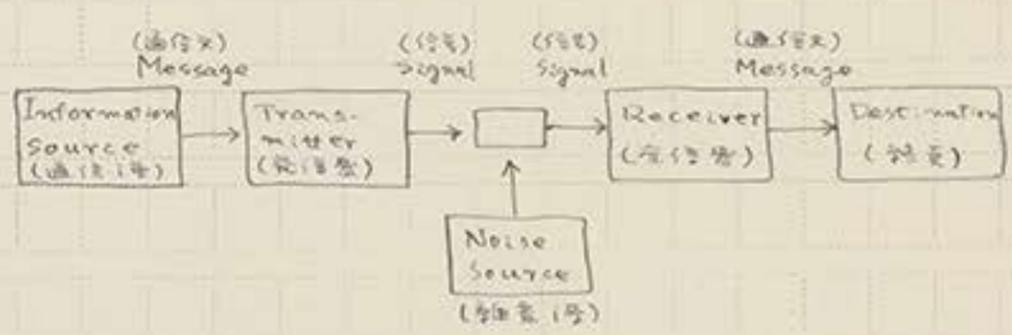
9  
9

(2020-06-08)

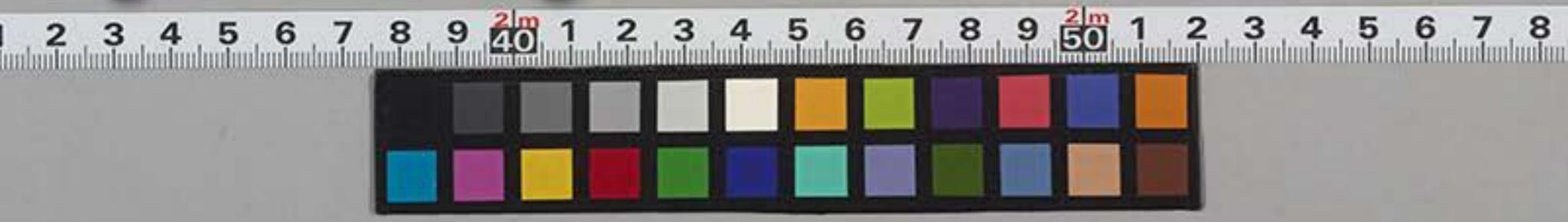
Kyoto University



はゆきまかせ人。 → 2 の説明に ついては、 Handwritten  
 しかた方法が、 Handwritten  
 効果的である仕事も、 Handwritten  
 手紙。 → 2 の分析に依り、 → の対象を、  
 1 とした。 → 2 とした。  
 私は、 → 2 について、 Handwritten Communication  
 の問題が、 → の。 大なる役割を、 → とした。  
 → 3. Cybernetics (Communication & Control の研  
 究) の研究が、 → の。 → 2 である。 Com. 研  
 究を用いて、 問題を、 → 2 である。 → 2 とした。  
 → 3.



「子方」の、 Information Source 是、 「革命指導  
 者の思想の総体」 (A') に対応して、 → 2 とした。  
 → 3. → 2 とした。 Message は、 → 2 とした。  
 思想の総体の → 2 とした。 → 2 とした。  
 → 2 とした。 → 2 とした。 → 2 とした。  
 (Handwritten)

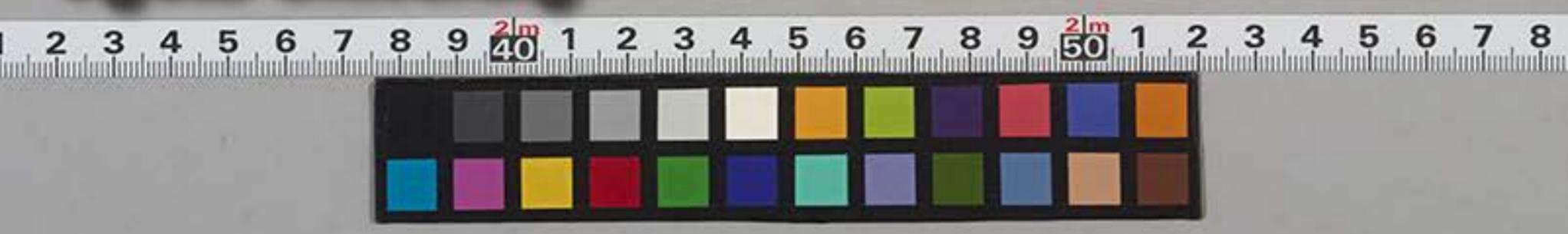


と思いますが、たとえば、「全部を収集して」  
 とか、「その内容を扱ってあげる」など。次に  
 は、Transmitter は、思想の電波を、自分  
 の思想の電波から取り出した情報の表現を  
 表現するための用いられるものを「表現技  
 術」に対応し、Signal は、Message の Trans.  
 による「表現形式」、すなわち、Message の記号  
 化されたもの。(送信、受信、伝送、コード、ト  
 録画、立居、放送、集約等、etc.) に対応し  
 ます。Noise Source は、通信のせいで、政府の言

論が、すなわち、たとえば、「signal の伝達を促す  
 こと」、~~すなわち~~ Receiver は、signal の受け手  
 の signal を受け取り、受信者の  
 「Message を受けとる技術」、たとえば「伝送」の  
 受けとる能力など、次に「Message は、  
 受け手側の受信者と signal を受け取り、  
 受けとる思想、Destination は、受け手、  
 受けとる伝送、media に対応し、受けとる  
 Message は、受け手の思想の電波を受けとる  
 ための用いられる技術のイコール、すなわち

(参考: 伝送技術)

Kyoto University



7. 特定の仕方の解釈をした。と考へた。と  
す。

ここまでのプロセスが、普通の communication  
論の問題に於て決つた。  $\vec{z}$  の分析は、この  
プロセスの終極的な象の革命的動の過程を  
とらへた。この問題に於て決つた。と考へた。

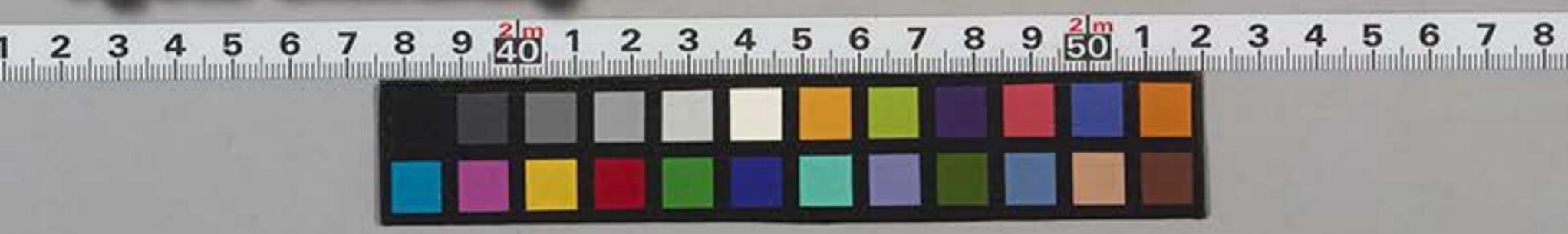
この問題を解決する。  $\vec{z}$  の分析は、  
A' x B' の過程をとり、この問題をとり、この  
両者の中間に  $\langle \cdot \rangle$  の媒介過程は、この

と、このことが可能にたつた。操作が割合  
容易に  $\vec{z}$  の分析は、  
(N.R.)

$\vec{x}$  と  $\vec{y}$  の分析は、以上は、説明は、  
口と  $\vec{z}$  の関係は、この Information Source の  
分析に於て決つた。

また、  $\vec{z}$  の分析は、  
したがって、この com. プロセスの分析は、  
したがって、従来の com. 論で明らかになつた

と、 Control Analysis, Content Analysis,  
(N.R.)



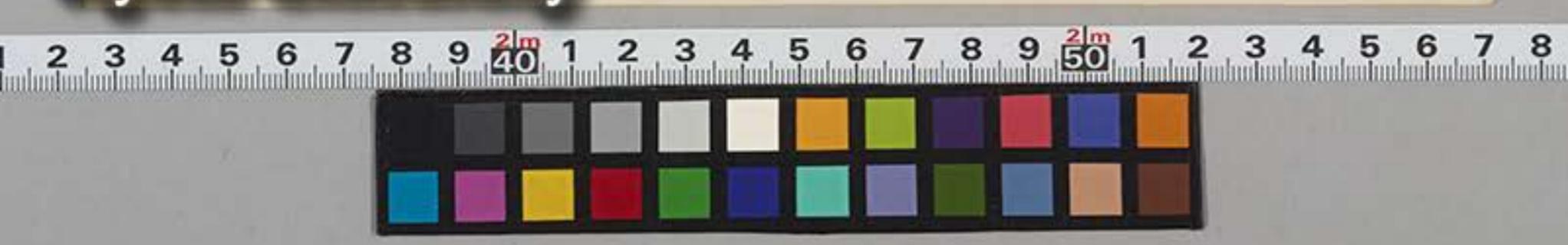


にそのものを「 $\frac{1}{2}$ 」と「 $\frac{1}{2}$ 」と  
 この式、唯物大観に於ける上部—下部構造  
 の内径に「 $\frac{1}{2}$ 」の公式を、一層、仕方のし  
 ず、 $\frac{1}{2}$  ~~supra~~ 取に於てかえり申がかりに「 $\frac{1}{2}$ 」  
 取の意図の取、まじりの「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」  
 こ「 $\frac{1}{2}$ 」の案を、まじりと具体的に、 $\frac{1}{2}$ の「 $\frac{1}{2}$ 」  
 共同研究」に「 $\frac{1}{2}$ 」の通印の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」  
 取の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」  
 取の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」

メソバ—の具体的な修飾、 $\frac{1}{2}$ と「 $\frac{1}{2}$ 」の意向分野。  
 現在の主要な同心、 $\frac{1}{2}$ と「 $\frac{1}{2}$ 」の投入可能量。  
 ベ—ス+リ+「 $\frac{1}{2}$ 」、メ—バ—内の人間関係。  
 年令配置、職業配置など、正確に吟味しな  
 ければならぬ。取の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」  
~~実質が、永年の経験から「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」~~  
 こ「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の準備が充分あり、その人の  
 「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」  
 取の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」の「 $\frac{1}{2}$ 」  
 に想定すべからず、 $\frac{1}{2}$ の自然発生的存在で

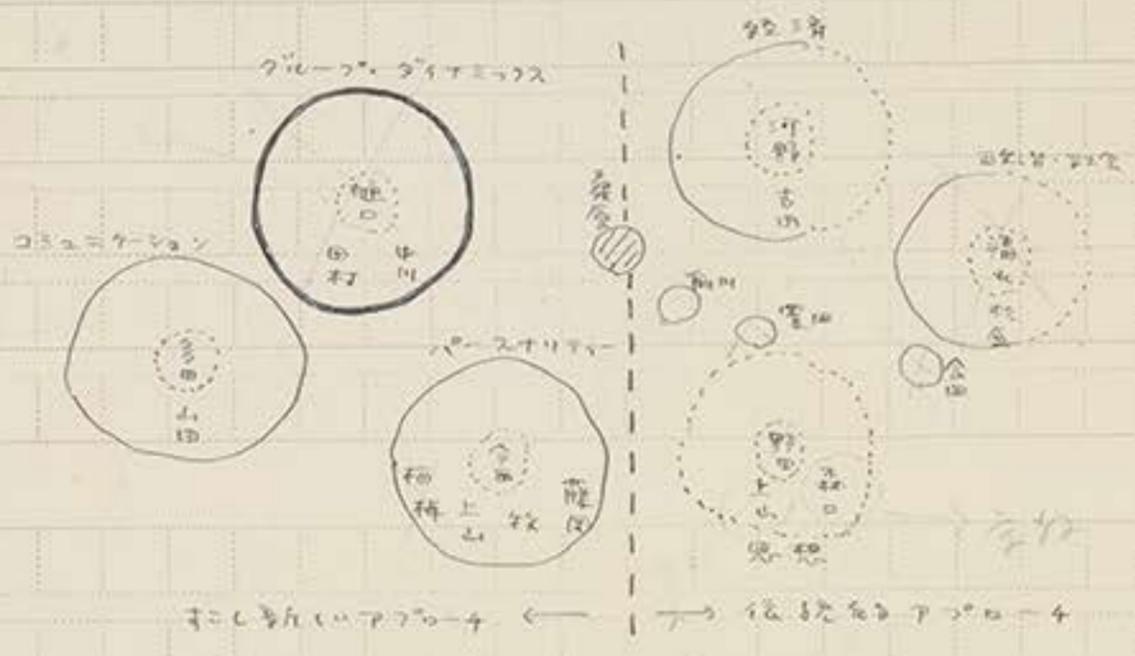
(附録(5)の(2)の(2))

Kyoto University



ありあけのてん、いんのかのわづら-つて、  
 への機子想えれを代能と相互関係に、いゝ極  
 討すよ、と、いふことなり。その結果、右まゝ  
 のてんまじり、次のよゝな図式にあらわすこ  
 とが、いふことなり。

1959



この図式は、いまの現実にあつて、いゝか  
 せしめさせへ、年末に、多田、樋口両君と  
 検討した結果なり。全体として、先生  
 が司令官、河野君が副官、樋口君が連絡  
 持校、と、いふ役割を果して、いふことなり。  
 いかゞせしめ、いふことが、大体、私のこゝろ  
 への編成なりと思ふことなり。  
 以上、このよゝに、あらわす大まかに、とら

(河野君は、河野君の秘書)

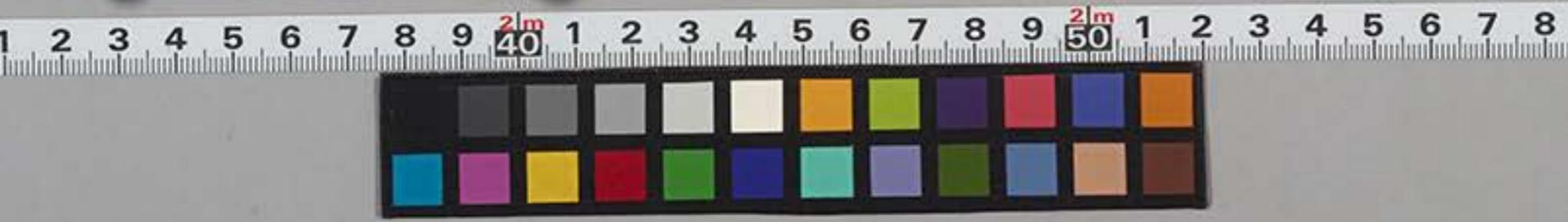


2. 概念的條件を概念に代いた上で、上に  
 入った4. 方法に拘らず研究を、~~4/19~~より具  
 体的に、 $\vec{x}$  (使えよう) 方法に、 $\vec{y}$  存在不  
 しとすれば「思」である。  
 明説明の便宜上、省略符号を用いた「思  
 い」である。一度かいた図でも、もう一度か  
 いたかきかえよう。



まづ、 $A'$  の成立條件を説明する  $\vec{x}$  と  $\vec{y}$  の合  
 称に「思」が、 $\vec{z}$  には「思」が、  
 $\vec{y}$  と  $\vec{z}$  のようにして「巨視的」な  
 方法と、一本釣りが「微視  
 的」な方法が考えられます。前者は explanato-  
 ry, 後者は descriptive な性格をもち、  
 上の「思」です。このように、 $\vec{x}$  と  $\vec{y}$  の  
 合成は、さしあたり、 $\vec{x}$  と  $\vec{y}$  の、  
 「巨視的」な分析  $\vec{z}$  と相当するにすぎない  
 でしょう。

(参考: 矢野龍渓)









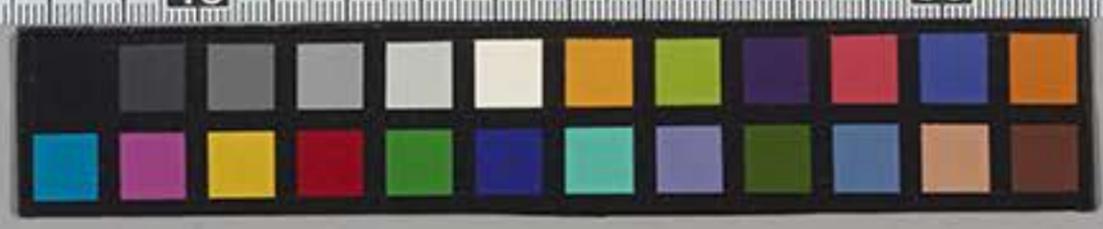
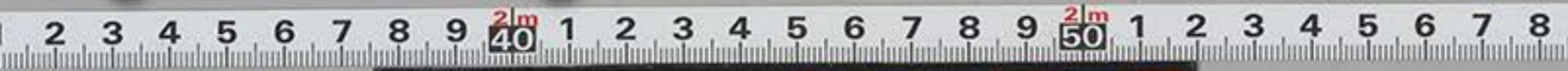


$A \rightarrow B$  は、 $\rightarrow$  (A'  $\rightarrow$  B') の分析です。  
 つまり、「いかにして革命家たちの思想が  
 革命の土壌に根を植えるか」という問題  
 です。  
~~この問題の解決には、まず革命家たちの思想を  
 分析し、その土壌に根を植える方法を  
 考える必要がある。~~  
 この点と  $\rightarrow$  は、 $\rightarrow$  は control  
 と communication の問題が中心にあるのでは  
 ないか、という気がいたします。つまり、こ  
 の、福口グループは control の分析に力を集  
 中してまいりました。多田グループは communication

分析をテーマにいかかざっています。いづれのグ  
 ループにも、前川・豊田・~~山田~~ (会田 昭氏) のバック・ア  
 ップが必要だと感じました。すなわち、control の分  
 析には、政策や集団の性格分析と、いう観点で、  
 清水グループの協力が大いに必要です。  
 communication 分析における Audience Analysis  
 には、どうしても河野グループの協力が必要  
 だと感じました。  
 以上を、大体 (佐々木/山田) 社の方法調査に  
 もとづいて、今後の分析も検討し、あつた訳です。

(佐々木 < 山田 昭氏)

Kyoto University



したが、その結果、すでに列挙したもののほか  
に、

[V]  $\vec{Z}$  の control 分析 --- 樋口・清水グループ

[VI]  $\vec{Z}$  の communication 分析 --- 多田グループ

という2つの仕事の単位と組織グループが想定  
された。以下、

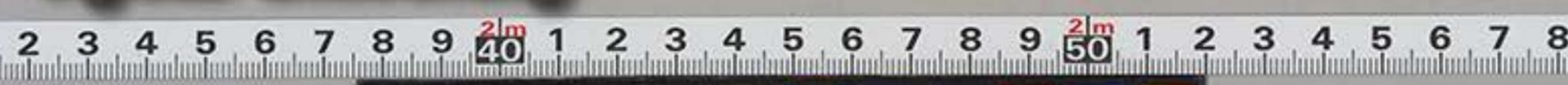
[V] の仕事は [IV] (伝記グループ) の仕事と接  
する関係もあつた。なぜなら、[IV] と同様に  
その大半が命題思考の方向性が、[V] によつて  
敵対しつゝ協力しつゝあつた。このグループ

のメンバーとしてよく知られてゐる。そ  
うである。[IV] の仕事の過程でも、命題思考の向  
向の相互関係の問題にかゝる。これはありませ  
んが、現象はあくまで微理的であり、どう  
もかといふは個人中心のつてあります。[V] では  
しかし、~~1981年10月/1981年10月~~ 人間関係が主題とな  
りました。これは、ジャコブソン・クラブを中心

として、左に「コルドリエ・クラブ」、バリーの「コ  
ンメンテーション」、右に「1981年の会」、  
「フレイヤン・クラブ」など、内部構成とグループ相互の関

(関係図を参照)

Kyoto University







と 7/8 2 5 4 2 7.

(N. B.)

1740 年 刊 行 の 文 法 書 『<sup>ルビ</sup> 語 法 』 大 正 時 代

動 詞 の 用 法 等 について 述 べ ず ぬ 事 だ け だ。

(本 書 の 著 者 は 一 般 大 人 が 習 得 せ ざ ざ ー だ け だ)

1745 ~ 69.

一 般 大 人 が 習 得 せ ざ ざ ー だ け だ とい っ

て 1750 ~ 65. の 期 間 だ け だ。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

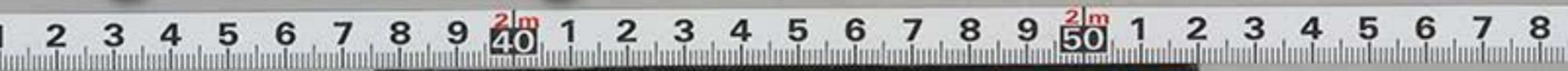
~~~~~

~~~~~

~~~~~

(西 京 大 学 蔵 書 印)

Kyoto University



Handwritten scribbles at the top of the page.

Handwritten text: ... 1790年 ...

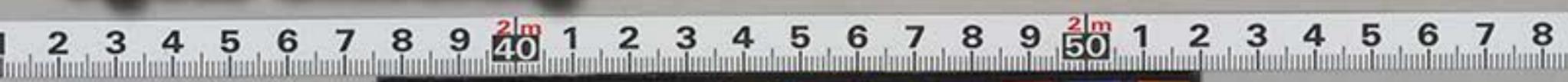
Handwritten text: ... 革命 ...

Handwritten text: ... (1) ...

Handwritten text: ... 革命 ...

(Handwritten note at the bottom right)

Kyoto University





マルクス＝レーニン主義の綱領とこれに、独裁主義  
 と民主主義の綱領に、いゝ大なる内戦を提起  
 してゐると思ふ。トボシオンが「<sup>ソ</sup>」  
 18日に革命に力した。独裁政府は、  
 プルジョフ政権を確立するたため、7月14日  
 (バスケット＝ユース)や6月2日(ジロシヤン  
 追放)の場合のよう、人民の力をかり、  
 ではない。軍隊の力によつて、9月4日(エ  
 ンゲルスガレ)や5月11日(ジャコバン・派スイ  
 ガレ)のクーデターをやつてゐる。しかし、

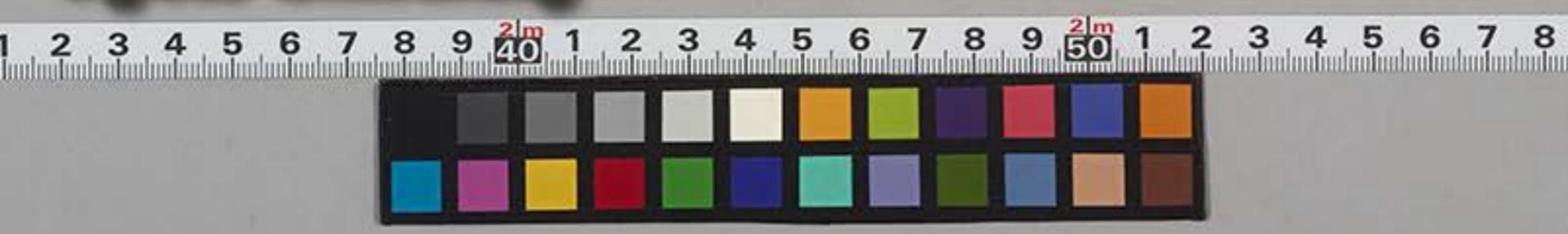
トボシオン出現の條件を明らかにするに、  
 三民主義の政治的時期を切り、  
 する決りはつかないと思ふ。

(三) バグーフにかゝる。

バグーフがフランス革命 *uniquement* から、  
 の上、に実験的教訓をひき出し、それによつ  
 て *Russ* 思想をひき出し、に発見させたが、こ  
 うことは、こんどの研究で、ひき出し、おさ  
 えておさるゝ。なせなら、<sup>それは、</sup>「ソ」の思想  
 → フランス革命 → バグーフの思想 → 2月革命

(参考文書は別紙)

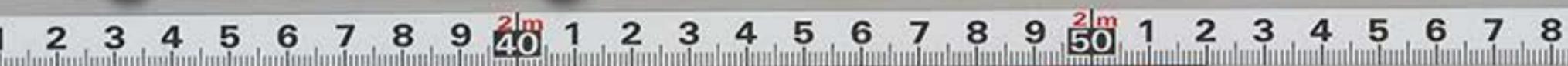
〔参考〕





|      | 革命の諸段階                           | (議会)<br>立法機関        | (政府)<br>行政機関         | 政体                             | 指導者   |
|------|----------------------------------|---------------------|----------------------|--------------------------------|-------|
| 1786 |                                  |                     | 財政改革                 |                                |       |
| 1787 | 2.22 名士会集                        |                     |                      |                                |       |
| 1788 | (A) ブルジョア革命<br>への序曲<br>(法律革命)    |                     |                      | 絶対王制                           | ルイ16世 |
| 1789 | 8.8 三日の暴動<br>9.25 バスチーユの暴動       | 5.5 国民公会            |                      |                                | ルイ16世 |
| 1790 | (B) ブルジョア革命<br>(ブルジョア独裁)         | 7.9 立法議会            | 7.9 王の退位<br>(内閣)     | 7.14 立憲王制<br>(共和)              | ルイ16世 |
| 1791 |                                  |                     |                      | [1791年憲法]                      | ルイ16世 |
| 1792 |                                  | 10.1 立法議会           |                      |                                | ルイ16世 |
| 1793 | (C) 人民革命への序曲                     | 8.10 王の退位           | 8.10 王子行政<br>委員会     | 9.21 人民共和制<br>[1793年憲法]        | ルイ16世 |
| 1794 | (D) 人民革命<br>(サンキュロット独裁)          | 6.2 公会              | 9.18 (or 12.4) 公安委員会 |                                | ルイ16世 |
| 1795 | (E) ブルジョア的<br>反動<br>(ブルジョア独裁の再建) | 7.28 公会の<br>臨時委員会   | 7.28 公会の<br>臨時委員会    | 7.28 ブルジョア<br>共和制<br>[1795年憲法] | ルイ16世 |
| 1796 |                                  | 10.27 元老院<br>500人全議 | 10.27 総裁政府           |                                | ルイ16世 |
| 1798 | 4.4 聖月クーデター<br>(共和)              |                     |                      |                                | ルイ16世 |
| 1799 | 5.11 聖月クーデター<br>(反共和)            |                     |                      |                                | ルイ16世 |
| 1800 | 6.18 聖月クーデター                     |                     |                      |                                | ルイ16世 |
|      | 11.10 2年7ヶ月 - 1800               |                     |                      |                                | ルイ16世 |

Kyoto University



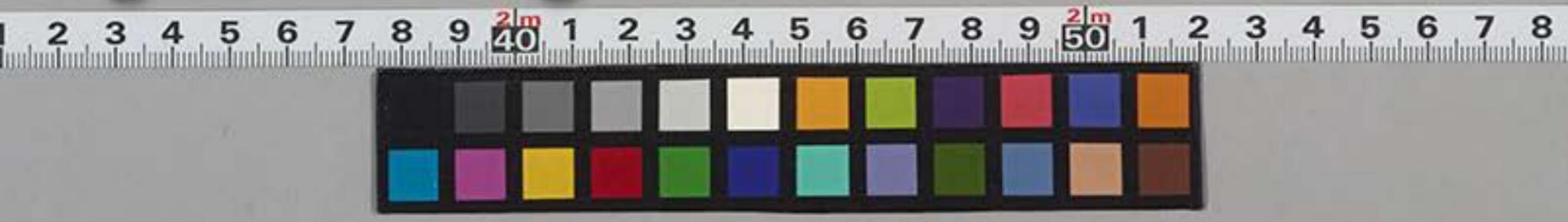


通方特徴、つまり、封建的互動（世襲もしく  
は幕府権力の強化）と新<sup>子</sup>態~~社会体制~~（商品  
経済の発展など）への適応と、西面、東  
の二つを、この二つの特徴が、…かに革命的  
…の條件に転化したか、と…うまか、ま…  
起る、と…うまか、ま…と見…ま  
す。

徳川政政の場合、危機が最後の段階で対外  
問題（外圧）によつて激化した、そのために  
革新派をたかざには不導、専制の方向には

おそくおそくたかざ、ま…うまか、ま…  
に…うまか、ま…しかし対外問題の處理を  
めぐって阿部正弘が皇親合体・雄藩合議の線  
をうたてたこと、カローヌが名士会を<sup>B</sup>  
集めた（1787・2・22）財政改革の助力を…した  
ことは、徳川幕府、ブルボン王朝と…専制  
権力の崩壊の直接な原因となり、たかざ、  
…うまか、ま…阿部正弘の處置が「公家と政治関係、  
雄藩の中央政争退出、名士雄議の端…うまか

(京都大学文学部)





史に於いては「寺田屋の巻」(1861)に於いて  
 予は「我が文章」に於いて、及著者力の内部  
 矛盾の具體化があり、「上層公家と藩主・上  
 士勢力」が「下層公家と下士勢力」に於いて  
 一対の対立の相対がなされて、久坂玄瑞  
 が土佐の別荘瑞山に於いて、「諸侯のつと  
 みにては、公家たるものに於いて、華貴士紳  
 合義のほかに口上をも集めてあること、  
 和心も同じ中中し合せあり候」と言いたるは  
 「寺田屋の巻」の翌年正月(1862)のこととす

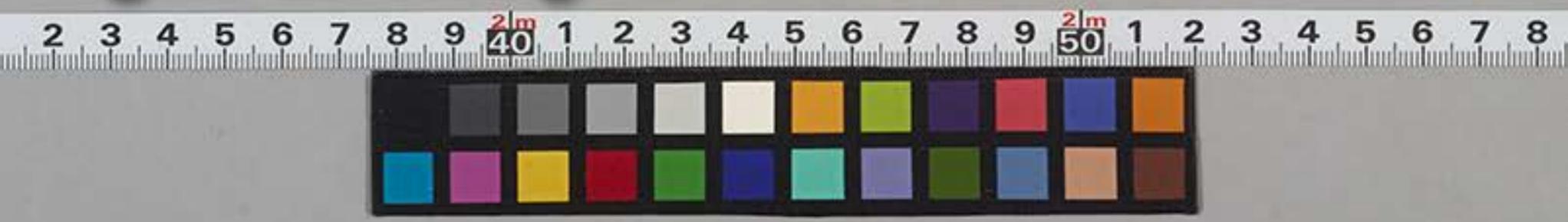
大。井上清士人によれば、「寺田屋の巻」の  
 には、……この態度が志士の基本方針と  
 あり、……と述べている。

二つに於いては、<sup>向</sup>後、そのプロトタイプ、  
 命田家などの思想の発展のついでと見て、  
 位で……と思ふべきであらう。<sup>相</sup>相違……  
 追求する必要が……に思ふべきである。

一 寺田屋の巻の中核を有する藩府双方の  
 対立して、<sup>相</sup>相違……と見て、  
 二つに於いては、……と見て、

(出典……)

Kyoto University





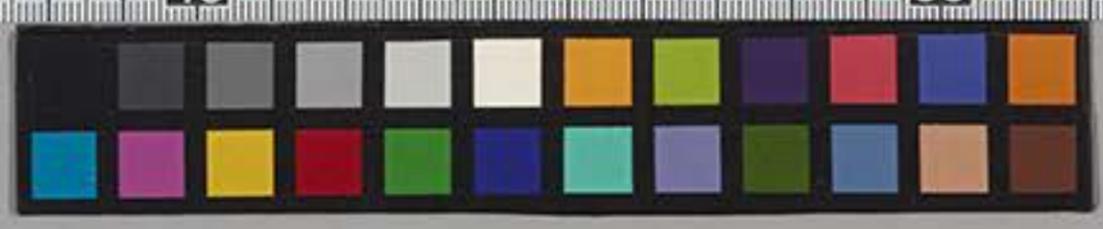
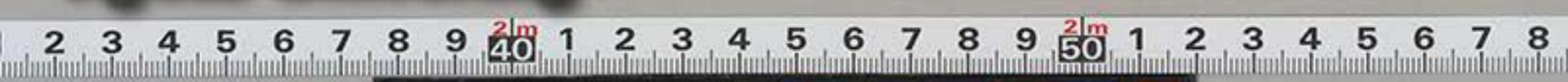


ナアエ... したが... 又...  
 の... 位... 的... 一... 年... 弱...  
 国... は... と... の... 論... した...  
 両... の... 相... 互... 向... 往... と... 充... 分... の... 交... 流... を... 進... 行... さ... せ...  
 る... こと... は... 必... ず... 行... う... 必... ず... の... 事... だ... と... 考... へ...  
 大... き... だ... と... 考... へ... した... が... 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以...  
 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 十... 二... 年... 間... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した... 昭... 和... の... 初... 年... 以...  
 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...

(注) 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...  
 一... 方... は... 昭... 和... の... 初... 年... 以... 来... の... 交... 流... と... 交... 渉... の... 中... 心... 地... だ... と... 考... へ... した...

(昭和三十九年)

Kyoto University







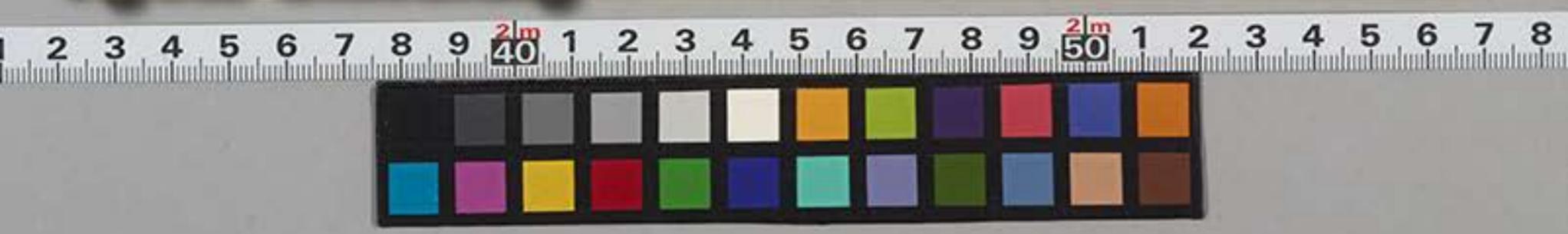
力を有する者でありました。それが現象的に黒  
 船（工場や大工場に力をつけることと同じスチ  
 ム・エンジンが走る船）の如くあり、わが  
 国は予て目撃人。其船の威力に力づくして  
 万に著るのライケツした日本通商條約（18  
 58）が、物價を一掃、口元下層の生活困窮  
 をもたらした。これに強力な改革の促進  
 剤になつたが、そのうちをとりかへし  
 ことは、たゞに相当な割引をして、たゞに  
 も、アインシャ・レジャーの末期にたつた。

1858年イギリスとの自由通商條約  
 イケツ（1786）の<sup>が</sup>口内<sup>に</sup>イタコ<sup>を</sup>重視し  
 たり、決にはいませぬ。明治維新  
 産業革命の過程に入つたイギリスの如く  
 工業の生産力の増進によつて、そのうち  
 本邦旧体制の破壊作用は、やがて行はるべき  
 である。其の現象を思ふ。

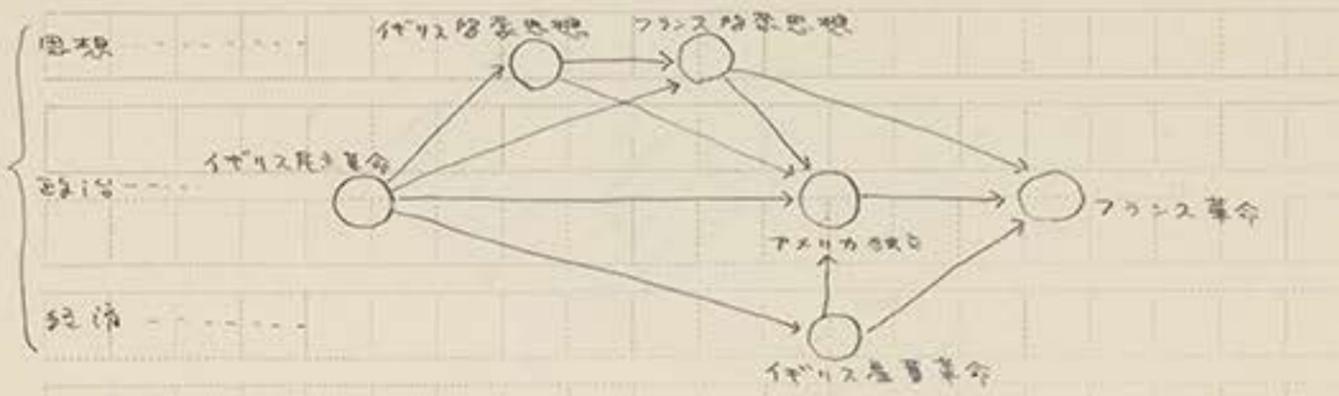
したがって、工業革命の前途に拘らず、  
 対外問題は対イギリス問題に集約される決  
 する。

(明治維新の歴史)

Kyoto University



たよりな三つの源泉がはらたかえりと思  
 のこと。二水で固式的に表現すれば、次  
 うに存すると思ふ。



(N.B)

アメリカ独立戦争は、17年戦争から見て  
 多く対英憎悪と、啓蒙思想のそとで

利を対(二の場合、イギリス君主の専  
 制に對する反対、たゞ入は ~~the~~ 独立

宣言に表現されたことよりなす(五項)

がからりあつた形でフランスの大衆のな  
 がにシントーしたこと、これに導かれた

く、新大陸での革命の発展が、旧大陸  
 での困難な革命の発展にたらしめたこと、多く

の教訓と経験の田舎を二と与えたこと、  
 など、その文化の源にたつた、大なる政治

的、思想的イデオロギ、フランス革命に對し

(註文はくはるべき)



とてつてゐると思ふ。こゝに於ては、  
この戦争に参加することによつてつら  
く絶対主義政政のうへに財政的打撃を  
受ける。正しく評價を大加はらるゝ  
と思ふ。アメリカ独立戦争を以て人  
類史の第一として大稱はするに、  
せめて明かにして置くべきであらう。

(三) 革命のイデオロギーについて。

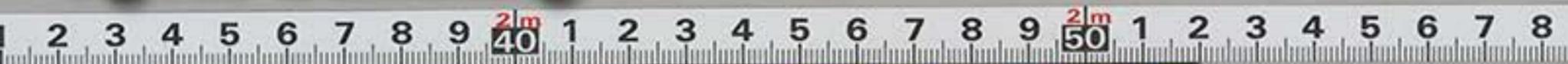
明治維新における「尊王攘夷」に於ける中

心的な革命イデオロギーを以てする革命に於て  
めれば、それは「反専制主義」といふこと  
に要約できると思ふ。それは、この大も  
革命勢力の反抗を正当化するための原理を  
明らかにしたものであり、

その原理の基本的性格は何  
か、といふと、「尊王攘夷」の場合には、

- 1) 西志の「新論」に代表された徳政的「<sup>多</sup>階級論」
- 2) 「反専制主義」の場合には、ルソーの
- 3) 市民論に代表された近代的「自然法思想」

(新編大分県史)







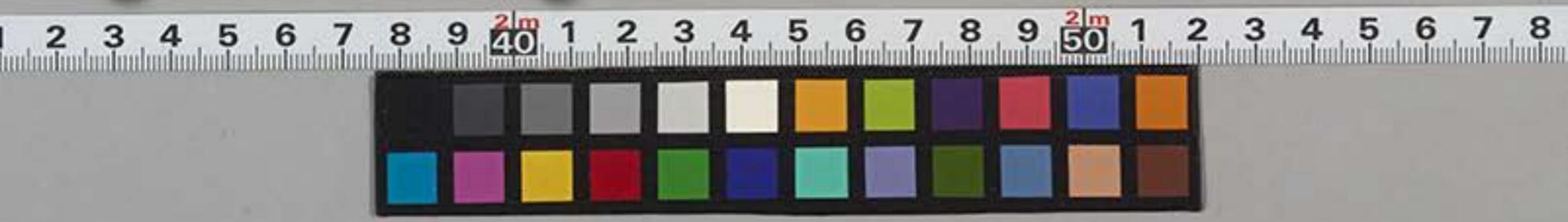
ルセルが共産主義活動で、大目にはその期間(1950~  
65)が、革命思想の普及の中心として、この連  
鎖で水曜日(1950~1955)もこれに等し  
ぬ注目を受けることになった。 増設付「共産主義活動」の「1950」  
かに存在する封建的排外思想を、この部分  
でも、むしろ、独立戦争参加期間の反響を  
義の論議はより實質的な効果をもち、この  
なかで、このころから、このころ、このころ、  
戸籍を中心として封建排外と封建運動の入り

いで展開した大衆運動が、倒幕運動の  
ロマンチックに転化した。このころには、このころ  
なか、このころ、このころ、このころ、  
このころ、このころ、このころ、このころ、  
このころ、このころ、このころ、このころ、

このころ、このころ、このころ、このころ、  
このころ、このころ、このころ、このころ、  
このころ、このころ、このころ、このころ、  
このころ、このころ、このころ、このころ、  
このころ、このころ、このころ、このころ、

46

(本誌の中心記事)

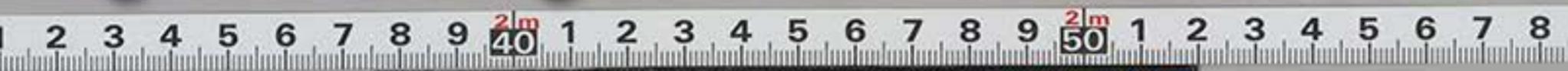


1791年6月20日 幕府が「尊皇」として、  
 20 幕府が「尊皇」として、  
 体制の変更、つまり倒幕、王政復古、の方向  
 が同時に暗示された。これととも考えられた。  
 超党派の「尊皇」により、公  
 武合体、つまり天皇の権威と幕府の双方の  
 力を合わせ、幕府を倒すことになった。この  
 新の主体となった下級武士たちは、同じこと  
 ばかりであった。幕府体制から天皇制へ、という  
 権力の移行期を考えたのである。この権力移動、

つまり將軍から天皇へのバトン・タッチ、は、  
 フランス革命の場合に比べて、  
 君主から立憲君主へ、というシフトである。  
 フランス革命の目標は、  
 フランスでは、  
 君主から立憲君主へ、というシフトである。

フランス革命の目標は、  
 フランスでは、  
 君主から立憲君主へ、というシフトである。  
 フランス革命の目標は、  
 フランスでは、  
 君主から立憲君主へ、というシフトである。

(本稿はあくまで仮説である)



バン左派の運動と対応する役割をもつたが、  
 フランスの場合とは反対に敗北をキッカ、新  
 たな権力移動を實現しえませんでした。即ち  
 維新において、將軍→天皇という権力移動の  
 運動を指導した中心人物は、大久保と西郷  
 だ。これは、魯フランス革命において、革命  
 君主→立憲君主という権力移動（後者は人民  
 主権の前提にたつておきました）の立役者、  
シェーエスとミラボーのコンビに相当するこ  
 とをよびとらえておいた。（岩倉と <sup>キックル</sup> Humboldt

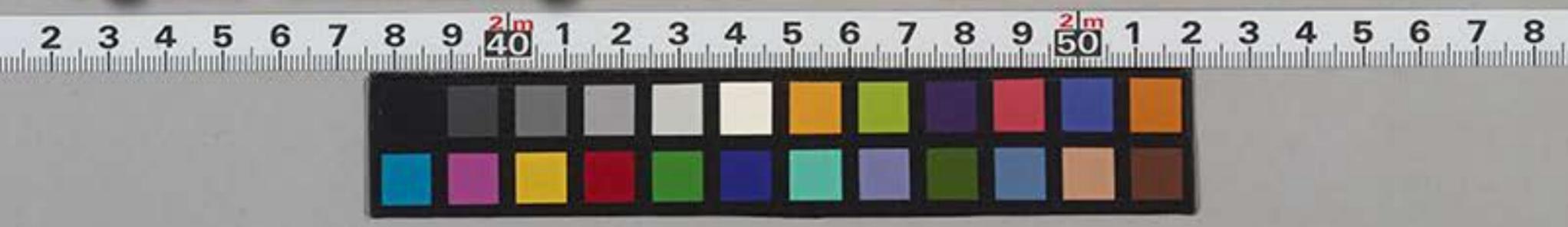
48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100  
 101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200  
 201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250  
 251  
 252  
 253  
 254  
 255  
 256  
 257  
 258  
 259  
 260  
 261  
 262  
 263  
 264  
 265  
 266  
 267  
 268  
 269  
 270  
 271  
 272  
 273  
 274  
 275  
 276  
 277  
 278  
 279  
 280  
 281  
 282  
 283  
 284  
 285  
 286  
 287  
 288  
 289  
 290  
 291  
 292  
 293  
 294  
 295  
 296  
 297  
 298  
 299  
 300  
 301  
 302  
 303  
 304  
 305  
 306  
 307  
 308  
 309  
 310  
 311  
 312  
 313  
 314  
 315  
 316  
 317  
 318  
 319  
 320  
 321  
 322  
 323  
 324  
 325  
 326  
 327  
 328  
 329  
 330  
 331  
 332  
 333  
 334  
 335  
 336  
 337  
 338  
 339  
 340  
 341  
 342  
 343  
 344  
 345  
 346  
 347  
 348  
 349  
 350  
 351  
 352  
 353  
 354  
 355  
 356  
 357  
 358  
 359  
 360  
 361  
 362  
 363  
 364  
 365  
 366  
 367  
 368  
 369  
 370  
 371  
 372  
 373  
 374  
 375  
 376  
 377  
 378  
 379  
 380  
 381  
 382  
 383  
 384  
 385  
 386  
 387  
 388  
 389  
 390  
 391  
 392  
 393  
 394  
 395  
 396  
 397  
 398  
 399  
 400  
 401  
 402  
 403  
 404  
 405  
 406  
 407  
 408  
 409  
 410  
 411  
 412  
 413  
 414  
 415  
 416  
 417  
 418  
 419  
 420  
 421  
 422  
 423  
 424  
 425  
 426  
 427  
 428  
 429  
 430  
 431  
 432  
 433  
 434  
 435  
 436  
 437  
 438  
 439  
 440  
 441  
 442  
 443  
 444  
 445  
 446  
 447  
 448  
 449  
 450  
 451  
 452  
 453  
 454  
 455  
 456  
 457  
 458  
 459  
 460  
 461  
 462  
 463  
 464  
 465  
 466  
 467  
 468  
 469  
 470  
 471  
 472  
 473  
 474  
 475  
 476  
 477  
 478  
 479  
 480  
 481  
 482  
 483  
 484  
 485  
 486  
 487  
 488  
 489  
 490  
 491  
 492  
 493  
 494  
 495  
 496  
 497  
 498  
 499  
 500  
 501  
 502  
 503  
 504  
 505  
 506  
 507  
 508  
 509  
 510  
 511  
 512  
 513  
 514  
 515  
 516  
 517  
 518  
 519  
 520  
 521  
 522  
 523  
 524  
 525  
 526  
 527  
 528  
 529  
 530  
 531  
 532  
 533  
 534  
 535  
 536  
 537  
 538  
 539  
 540  
 541  
 542  
 543  
 544  
 545  
 546  
 547  
 548  
 549  
 550  
 551  
 552  
 553  
 554  
 555  
 556  
 557  
 558  
 559  
 560  
 561  
 562  
 563  
 564  
 565  
 566  
 567  
 568  
 569  
 570  
 571  
 572  
 573  
 574  
 575  
 576  
 577  
 578  
 579  
 580  
 581  
 582  
 583  
 584  
 585  
 586  
 587  
 588  
 589  
 590  
 591  
 592  
 593  
 594  
 595  
 596  
 597  
 598  
 599  
 600  
 601  
 602  
 603  
 604  
 605  
 606  
 607  
 608  
 609  
 610  
 611  
 612  
 613  
 614  
 615  
 616  
 617  
 618  
 619  
 620  
 621  
 622  
 623  
 624  
 625  
 626  
 627  
 628  
 629  
 630  
 631  
 632  
 633  
 634  
 635  
 636  
 637  
 638  
 639  
 640  
 641  
 642  
 643  
 644  
 645  
 646  
 647  
 648  
 649  
 650  
 651  
 652  
 653  
 654  
 655  
 656  
 657  
 658  
 659  
 660  
 661  
 662  
 663  
 664  
 665  
 666  
 667  
 668  
 669  
 670  
 671  
 672  
 673  
 674  
 675  
 676  
 677  
 678  
 679  
 680  
 681  
 682  
 683  
 684  
 685  
 686  
 687  
 688  
 689  
 690  
 691  
 692  
 693  
 694  
 695  
 696  
 697  
 698  
 699  
 700  
 701  
 702  
 703  
 704  
 705  
 706  
 707  
 708  
 709  
 710  
 711  
 712  
 713  
 714  
 715  
 716  
 717  
 718  
 719  
 720  
 721  
 722  
 723  
 724  
 725  
 726  
 727  
 728  
 729  
 730  
 731  
 732  
 733  
 734  
 735  
 736  
 737  
 738  
 739  
 740  
 741  
 742  
 743  
 744  
 745  
 746  
 747  
 748  
 749  
 750  
 751  
 752  
 753  
 754  
 755  
 756  
 757  
 758  
 759  
 760  
 761  
 762  
 763  
 764  
 765  
 766  
 767  
 768  
 769  
 770  
 771  
 772  
 773  
 774  
 775  
 776  
 777  
 778  
 779  
 780  
 781  
 782  
 783  
 784  
 785  
 786  
 787  
 788  
 789  
 790  
 791  
 792  
 793  
 794  
 795  
 796  
 797  
 798  
 799  
 800  
 801  
 802  
 803  
 804  
 805  
 806  
 807  
 808  
 809  
 810  
 811  
 812  
 813  
 814  
 815  
 816  
 817  
 818  
 819  
 820  
 821  
 822  
 823  
 824  
 825  
 826  
 827  
 828  
 829  
 830  
 831  
 832  
 833  
 834  
 835  
 836  
 837  
 838  
 839  
 840  
 841  
 842  
 843  
 844  
 845  
 846  
 847  
 848  
 849  
 850  
 851  
 852  
 853  
 854  
 855  
 856  
 857  
 858  
 859  
 860  
 861  
 862  
 863  
 864  
 865  
 866  
 867  
 868  
 869  
 870  
 871  
 872  
 873  
 874  
 875  
 876  
 877  
 878  
 879  
 880  
 881  
 882  
 883  
 884  
 885  
 886  
 887  
 888  
 889  
 890  
 891  
 892  
 893  
 894  
 895  
 896  
 897  
 898  
 899  
 900  
 901  
 902  
 903  
 904  
 905  
 906  
 907  
 908  
 909  
 910  
 911  
 912  
 913  
 914  
 915  
 916  
 917  
 918  
 919  
 920  
 921  
 922  
 923  
 924  
 925  
 926  
 927  
 928  
 929  
 930  
 931  
 932  
 933  
 934  
 935  
 936  
 937  
 938  
 939  
 940  
 941  
 942  
 943  
 944  
 945  
 946  
 947  
 948  
 949  
 950  
 951  
 952  
 953  
 954  
 955  
 956  
 957  
 958  
 959  
 960  
 961  
 962  
 963  
 964  
 965  
 966  
 967  
 968  
 969  
 970  
 971  
 972  
 973  
 974  
 975  
 976  
 977  
 978  
 979  
 980  
 981  
 982  
 983  
 984  
 985  
 986  
 987  
 988  
 989  
 990  
 991  
 992  
 993  
 994  
 995  
 996  
 997  
 998  
 999  
 1000  
 1001  
 1002  
 1003  
 1004  
 1005  
 1006  
 1007  
 1008  
 1009  
 1010  
 1011  
 1012  
 1013  
 1014  
 1015  
 1016  
 1017  
 1018  
 1019  
 1020  
 1021  
 1022  
 1023  
 1024  
 1025  
 1026  
 1027  
 1028  
 1029  
 1030  
 1031  
 1032  
 1033  
 1034  
 1035  
 1036  
 1037  
 1038  
 1039  
 1040  
 1041  
 1042  
 1043  
 1044  
 1045  
 1046  
 1047  
 1048  
 1049  
 1050  
 1051  
 1052  
 1053  
 1054  
 1055  
 1056  
 1057  
 1058  
 1059  
 1060  
 1061  
 1062  
 1063  
 1064  
 1065  
 1066  
 1067  
 1068  
 1069  
 1070  
 1071  
 1072  
 1073  
 1074  
 1075  
 1076  
 1077  
 1078  
 1079  
 1080  
 1081  
 1082  
 1083  
 1084  
 1085  
 1086  
 1087  
 1088  
 1089  
 1090  
 1091  
 1092  
 1093  
 1094  
 1095  
 1096  
 1097  
 1098  
 1099  
 1100  
 1101  
 1102  
 1103  
 1104  
 1105  
 1106  
 1107  
 1108  
 1109  
 1110  
 1111  
 1112  
 1113  
 1114  
 1115  
 1116  
 1117  
 1118  
 1119  
 1120  
 1121  
 1122  
 1123  
 1124  
 1125  
 1126  
 1127  
 1128  
 1129  
 1130  
 1131  
 1132  
 1133  
 1134  
 1135  
 1136  
 1137  
 1138  
 1139  
 1140  
 1141  
 1142  
 1143  
 1144  
 1145  
 1146  
 1147  
 1148  
 1149  
 1150  
 1151  
 1152  
 1153  
 1154  
 1155  
 1156  
 1157  
 1158  
 1159  
 1160  
 1161  
 1162  
 1163  
 1164  
 1165  
 1166  
 1167  
 1168  
 1169  
 1170  
 1171  
 1172  
 1173  
 1174  
 1175  
 1176  
 1177  
 1178  
 1179  
 1180  
 1181  
 1182  
 1183  
 1184  
 1185  
 1186  
 1187  
 1188  
 1189  
 1190  
 1191  
 1192  
 1193  
 1194  
 1195  
 1196  
 1197  
 1198  
 1199  
 1200  
 1201  
 1202  
 1203  
 1204  
 1205  
 1206  
 1207  
 1208  
 1209  
 1210  
 1211  
 1212  
 1213  
 1214  
 1215  
 1216  
 1217  
 1218  
 1219  
 1220  
 1221  
 1222  
 1223  
 1224  
 1225  
 1226  
 1227  
 1228  
 1229  
 1230  
 1231  
 1232  
 1233  
 1234  
 1235  
 1236  
 1237  
 1238  
 1239  
 1240  
 1241  
 1242  
 1243  
 1244  
 1245  
 1246  
 1247  
 1248  
 1249  
 1250  
 1251  
 1252  
 1253  
 1254  
 1255  
 1256  
 1257  
 1258  
 1259  
 1260  
 1261  
 1262  
 1263  
 1264  
 1265  
 1266  
 1267  
 1268  
 1269  
 1270  
 1271  
 1272  
 1273  
 1274  
 1275  
 1276  
 1277  
 1278  
 1279  
 1280  
 1281  
 1282  
 1283  
 1284  
 1285  
 1286  
 1287  
 1288  
 1289  
 1290  
 1291  
 1292  
 1293  
 1294  
 1295  
 1296  
 1297  
 1298  
 1299  
 1300  
 1301  
 1302  
 1303  
 1304  
 1305  
 1306  
 1307  
 1308  
 1309  
 1310  
 1311  
 1312  
 1313  
 1314  
 1315  
 1316  
 1317  
 1318  
 1319  
 1320  
 1321  
 1322  
 1323  
 1324  
 1325  
 1326  
 1327  
 1328  
 1329  
 1330  
 1331  
 1332  
 1333  
 1334  
 1335  
 1336  
 1337  
 1338  
 1339  
 1340  
 1341  
 1342  
 1343  
 1344  
 1345  
 1346  
 1347  
 1348  
 1349  
 1350  
 1351  
 1352  
 1353  
 1354  
 1355  
 1356  
 1357  
 1358  
 1359  
 1360  
 1361  
 1362  
 1363  
 1364  
 1365  
 1366  
 1367  
 1368  
 1369  
 1370  
 1371  
 1372  
 1373  
 1374  
 1375  
 1376  
 1377  
 1378  
 1379  
 1380  
 1381  
 1382  
 1383  
 1384  
 1385  
 1386  
 1387  
 1388  
 1389  
 1390  
 1391  
 1392  
 1393  
 1394  
 1395  
 1396  
 1397  
 1398  
 1399  
 1400  
 1401  
 1402  
 1403  
 1404  
 1405  
 1406  
 1407  
 1408  
 1409  
 1410  
 1411  
 1412  
 1413  
 1414  
 1415  
 1416  
 1417  
 1418  
 1419  
 1420  
 1421  
 1422  
 1423  
 1424  
 1425  
 1426  
 1427  
 1428  
 1429  
 1430  
 1431  
 1432  
 1433  
 1434  
 1435  
 1436  
 1437  
 1438  
 1439  
 1440  
 1441  
 1442  
 1443  
 1444  
 1445  
 1446  
 1447  
 1448  
 1449  
 1450  
 1451  
 1452  
 1453  
 1454  
 1455  
 1456  
 1457  
 1458  
 1459  
 1460  
 1461  
 1462  
 1463  
 1464  
 1465  
 1466  
 1467  
 1468  
 1469  
 1470  
 1471  
 1472  
 1473  
 1474  
 1475  
 1476  
 1477  
 1478  
 1479  
 1480  
 1481  
 1482  
 1483  
 1484  
 1485  
 1486  
 1487  
 1488  
 1489  
 1490  
 1491  
 1492  
 1493  
 1494  
 1495  
 1496  
 1497  
 1498  
 1499  
 1500  
 1501  
 1502  
 1503



明治維新をフランス革命のモデルとして  
 捉えようとしたのは、豊満とすれば日本人がそ  
 の多量にこそ思われます。しかし、明治維新  
 を絶対主義絶対主義（專制主義）の成立としてとらえ  
 るのがルビョウ革命的特徴を正定するわけ  
 には、やはり厳正に日本では、維新史学  
 の主流をなしてこなかった。しかし、私は、  
 そうしただけに豊満ととらえるのであ  
 る。その人は、明治維新を漢語でフランス  
 革命の「*ルビョウ*」と、*liberalism* 一種の「*ルビョウ*  
 ヲ革命として捉えようとしたのは、さ  
 らうか。大正10年に、堀内正は『維新史の新  
 研究』という論文で、明治維新を「~~フランス革命~~  
 「*ルビョウ*」革命と規定し、イギリスとフランス  
 の革命と比較してその特徴を明らかにした。  
 そのうに述べたが、羽田五郎十人七、戦争中  
 (昭和15年)に書いた『明治維新』という本の存  
 分に、「おかげでこの明治維新元年の1868年  
 以来新元の一の近代国家として誕生し、  
 一独立国家として以来のフランス、また1789年以

(京都大学文学部)

Kyoto University



来のフ、う、し、え、な、ど、と、  
新、年、令、を、お、か、し、る、由、に、し、て、得、る、に、ま、た、(P.1)  
と、か、ら、い、ま、す。ま、た、  
維、新、の、人、々、が、明、治、  
維、新、の、基、本、的、に、は、  
規、定、し、て、い、く、に、は、  
明、治、政、府、を、絶、対、主、義、政、府、と、し、て、最、初、に、は、  
+、の、規、定、し、た、り、は、  
維、新、の、(、  
大、法、  
た、り、を、ま、か、り、と、し、て、こ、う、し、た、論、議、が、お、こ、

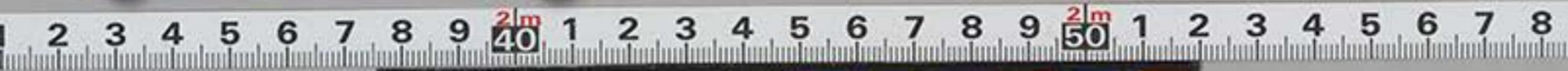
の、で、な、ら、い、と、思、い、ま、す。ま、た、  
維、新、の、(、  
(、  
の、  
の、  
し、た、  
は、

7  
5  
1

「  
が、  
定、に、

(

Kyoto University







に立つて、明治維新を絶対主義の成立とし  
て規定しようとする人々の任子は、  
<sup>主目的</sup>ブルジョア革命から出てきた後進のリベラ  
ルな通商手続の導入の有效なブレー  
クの役目を果たすこと。しかし、結果に  
おいては、維新後の過程におけるブルジョア  
革命的要素を、かなり重視することを  
のびはなすか、と思われました。

果てながしに、このころの  
イデオロギイが、このころの、  
なく、このころの、  
り、このころの、  
相当、このころの、  
と思われましたが、「共同研究」の推進に、  
が、役立ち、

存在、このころの、  
とし、愛着が、  
返し、このころの、

(1955. 1. 14)

上山春平

Kyoto University

